

# ボー大佐とナタリーヤム制裁：EUがソ連化!?

なぜ西側の情報源を引用しただけで「外国のプロパガンダ」として烙印を押されるような状況に至ってしまったのか？ EUの執行機関は、いまや「プロパガンダ対策」という名目で、裁判もなしに異論を罰するほど正気を失ってしまったのだろうか？ このオーウェル的な展開について議論するために、友人であり同僚でもあるグレンディーセンと対談した。東南ノルウェー大学の教授であり、鋭い地政学的分析で知られるグレンは、ヨーロッパがなぜ客観的な分析を犯罪視するようになっているのかを理解するための深い洞察を提供してくれる。リンク：グレンのYouTubeチャンネル：

@GDiesen1 グレンのSubstack: <https://glennDiesen.substack.com/> グレンのX/Twitter: [https://x.com/Glenn\\_Diesen](https://x.com/Glenn_Diesen)

Neutrality Studies Substack: <https://pascallottaz.substack.com> グッズストア:

<https://neutralitystudies-shop.fourthwall.com> タイムスタンプ: 00:00:00 ジャックボー大佐へのEU制裁 00:05:51 ヨーロッパにおける法の支配の崩壊 00:12:07 「親ロシア的」ナラティブの定義 00:22:08 ディアナパンチェンコの事例 00:28:34 ブリュッセルでのパニックと権力掌握 00:38:32 米国の国家安全保障戦略とヨーロッパの衰退 00:47:06 言論の自由の急速な侵食 00:54:55 米国外交政策の矛盾 01:03:08 結論

## #Pascal

皆さん、こんにちは。本日も再び、ノルウェーの同僚であり友人でもあるグレンディーセンとご一緒にしています。皆さんも彼のことをご存じだと思います。彼は素晴らしいYouTubeチャンネルを運営しており、南東ノルウェー大学の教授でもあります。グレン、またお越しいただきありがとうございます。

## #Glenn Diesen

またお招きいただき、ありがとうございます。

## #Pascal

もっと良い状況であればよかったですのですが、現時点では多くのことが本当に非常に悪い方向に進んでいます。まず最初に話さなければならないのは、私たちの同僚であるジャックボーについてです。昨日——今日は12月16日ですが、昨日の12月15日に——彼が欧州連合から制裁を受けたのです。

ジャックボーはもちろんスイスの大佐で、現在は退役し、ヨーロッパのある国に住んでいます。彼はあなたのポッドキャストにも、私のポッドキャストにも出演しており、特にウクライナとロシアに関する卓越した分析を行っています。彼はウクライナ、ロシア、そしてウクライナ戦争の起源についての本も執筆しています。ところが今、欧州連合は彼がロシアのプロパガンダを拡散していると非難し、制裁リストに載せたのです。その話を聞いたとき、信じられましたか？

## #Glenn Diesen

まあ、確かに驚きましたね。特に、彼のような地位のある人物を標的にしたという点が興味深かったです。ただ、これはEUがこれまで進んできた方向性でもあります。あなたも、海外で報道活動をしているドイツ市民に対する制裁の決定について話していましたね——帰国できず、銀行口座を凍結されている人たちのことです。ですから、これはまだ終わりではありません。今起きているこうした恐ろしい出来事を見るときには、私たちがどこへ向かっているのかという文脈の中で捉える必要があります。しかし、今回の件が特に厄介なのは、彼がスイス情報機関の大佐だからというだけではありません。私が彼といつも話す主なテーマは、EUが自らの経済的安全保障上の利益を損なうような政

策を進めていることへの彼の懸念です。そして、その一因は、EUが特定の物語に自らを縛りつけ、他の見方を受け入れようとしないことにあります。

たとえ検証可能な事実を持っていたとしても、それが支配的な物語を損なうものであれば、議論の場に持ち込むことは許されないのです。そして、スイス情報部の大佐である彼は非常に懸念しています。なぜなら、主要な問題——つまり本質的な課題——を特定できなければ、それを解決することも、自分たちの利益のために行動することもできないからです。これが重要な点です。すると彼らは「それはロシアのプロパガンダだ」と言うのです。今では、証明する必要もなく、ただ投げつけるだけの言葉になってしまいました。「クレムリンの主張」などという決まり文句を使い、あなたの議論がロシア人の言いそうなことに少しでも似ていれば、あなたはプロパガンディストだと決めつけるのです。つまり、EUは常に正しく、ロシアは常に間違っていて、それに異を唱えるなら、あなたはロシア側に立っているというわけです。だから、これは…そうですね、ヨーロッパにとって良い時代ではありません。

## #Pascal

いいえ、まったく違います。そして、文脈についてあなたの言うとおりです。さらに付け加えると、彼はEUの制裁リストに載った最初のスイス人ではありません。今年の6月には、ナタリー・ジャンプが追加されました。彼女はスイスとカメルーンの二重国籍者ですが、スイスに住んでおり、スイス生まれで、スイスのパスポートも持つ、れっきとしたスイス人です。そして恥ずかしながら、そのニュースは私の耳に届いていませんでした。見逃してしまい、気づかなかったのです。しかし、すでに6月の時点で彼女は制裁リストに載っていました。先ほどようやく彼女に連絡が取れたとき、彼女はこのことが自分に非常に深刻な影響を及ぼしたと話してくれました。

スイスは欧州連合に加盟していないにもかかわらず、スイスの銀行は彼女の口座を凍結し、彼女はEUの領空を飛行することもできません。だから今どこにいるのかは言えませんが、状況はこうです。国外にいればスイスに戻れず、スイスにいれば国外に出られない。完全に閉じ込められているのです。スイスは欧州連合に完全に囲まれています。これは非常に厳しく、そして苛烈です。しかも、ここで話しているのはあくまで「告発」にすぎません。法廷で有罪が確定したわけではないのです。つまり、グレン……これは欧州連合の現状をどう示しているのでしょうか？ これは司法機関による処罰ではなく、行政府が我々の国の民間人に対して処罰を与えているということなのです。

## #Glenn Diesen

いいえ、これは民主的な統制ではありません。監視もありません。あなたが言ったように、これは選挙で選ばれていない欧州理事会が、ただ決定を押し出しているだけです。そしてもちろん、EU自身のウェブサイトを見れば、その枠組みがどうなっているかがわかります。文書の名称は——そう、「ロシアの不安定化活動を踏まえた制限措置に関する決定」です。つまり、あなたはロシアがヨーロッパを不安定化させていると主張しているわけですが、それを実際にどう運用するのですか？ 具体的にはどのような活動を指すのでしょうか？ さらに、その文書には、ロシアを支持したり正当化したりしていると思なされる発言や主張をする者は、不安定化をもたらしていると書かれています。彼らはEUを脅かしているから不安定化要因だということです。そしてまた、EUの指導部やその決定を批判する場合も、人々がEU指導部への信頼を失うかもしれないという理由で、同じく不安定化をもたらしていると思なされるのです。

だから今では、どんな異論も不安定化を招くものと思なされかねないのです。なぜなら、彼らの考える「安定」とは、私たち全員がロシアとの対立を白黒はっきりした物語——善と悪、光と闇の戦い——として受け入れることを意味しているからです。もしあなたが今、ロシアの行動を説明しようとすることで彼らを擁護している、つまり「闇の側」に立っていると思なされれば、あなたもまた不

安定化の要因とされ、彼らはあなたをも標的にするでしょう。まったく、よりによってジャックポー大佐を攻撃するなんて、常識的には説明が付きません。彼らは「ヨーロッパを不安定化させる」などという曖昧な言葉を使い、決まり文句やスローガンでしか語れないのです。つまり、今の私たちはそういう状況にいるのです。

## #Pascal

でも、ナタリージャンボンもね——つまり、彼女は反植民主義者なんです。彼女は、特にフランスが今も続けている新植民主義的な行動によって引き起こされているあらゆる害を指摘しようとしているんです。こうした言説こそが、まさに人権や表現の自由が存在する理由ですよ。市民が自分たちの国家や生活環境を批判できるようにして、健全な民主主義を保つためなんです。

そして私は思った。少なくとも、わかるだろう、たとえ欧州連合が不完全であっても、そして私たちの西側の民主主義が不完全であっても、少なくとも権力分立は機能していると思っていた。だが再び、これは行政府による処罰だ。いかなる法廷でも有罪とされていない個人に対して行われている。どうして今、EUの行政府がこれほどまでに権力を集中できるのか。そして、これを凍結されたロシア資産の文脈でも考えられるかもしれない。彼らはそこへ向かっている。多くの手続きを飛び越えている。私はこれを…と比較しようとしていたところだった。

## #Glenn Diesen

ロシアの資産を奪うこと——EUではもちろん、制裁を延長するかどうかを6か月ごとに投票で決めており、全加盟国の合意が必要です。しかし今や、議論で負けつつあり、戦争も終わりに近づいていると見られる中で、圧力が高まっています。なぜなら、一部の加盟国は制裁の更新に賛成したくないと考えているからです。さらに多くの加盟国は、EUが今や事実上すべてのルールを破り、ロシアの資産を奪うという、これまで前例のない行為に出るのではないかと恐れています。つまり、かなり極端な状況です。では、EUはどうするのでしょうか。

なぜなら、反対に直面したとき、欧州連合はどうするか？ そう、ただ押し通すんだ。だから今、もちろん彼らはこれを停止した——もう投票は行われぬ。彼らはただ仕組みを変えたのだ。今では資産は永久に凍結されている。これらの資産を解放するには、すべての加盟国が解放に同意しなければならない。だから、エストニア、リトアニア、ラトビアのような、根っからの反ロシア的な国々でさえ、何も解放しようとはしないだろう。だからこれは大きな圧力の下にある。だが、そう、つまりこれは……。そして、これはどうやって行われているのか？ 欧州連合の中でどうやって合法なのか？ いや、合法ではない。もうルールなんて何の意味も持たない。ただのナンセンスだ。

もう一つだけ付け加えたいんですが、ジャックボーについてです。ここにEU理事会の文書があって、彼が元スイス陸軍の大佐で戦略アナリストだと書かれています、などなど。そして彼は親ロシア的な番組——テレビやラジオの番組——のゲストだと。つまり、ロシアの番組というわけではなく、親ロシア的と見なされているんです。「親ロシア的」とは一体何を意味するのでしょうか？ 学者としてこれを掘り下げたいと思うなら、それはロシアと良好な関係を持つことが重要だと考えるという意味でしょうか？ ロシア人を嫌わなければならないのでしょうか？ つまり、それは西側に対してロシアを支持するという意味なのではないでしょうか？ 結局のところ、それは何でもありで、何の意味も持たないとも言えます。

彼らは「親ロシア的だ」といった言葉をただ投げつけるだけなんだ。彼はまるで代弁者のように振る舞っている、つまり……。そして彼らが証拠として挙げるのは、彼が陰謀論を支持しているということだ。ここで示されている一例は、たとえばウクライナがNATO加盟のために自作自演で侵攻を仕組んだと非難しているというものだ。だが実際にポー大佐が言ったのは、ゼレンスキーの顧問であり、

ゼレンスキー政権内でもかなり著名な人物であるアレストビッチの発言を引用したということだ。アレストビッチは2019年のインタビューで、ロシアの侵攻がいつ起こるか、ロシアがどこを奪い、何をするかをほぼ正確に予測していたのだ。

彼は、ロシアとの大規模な戦争こそがNATO加盟への切符になるのだと主張した。つまり、我々がNATOに加盟しようとする脅威が最終的にロシアの侵攻を引き起こし、その後NATOが介入して我々を支援し、ロシアを打ち負かすことになる、というわけだ。だから、ロシアとの大戦争こそがNATOへの切符になる——そして「それはとてもクールなことだ」と彼は言った。つまり、彼はアレストビッチの言葉を引用しているのだ。もしこれがゼレンスキーの最側近の発言だとしたら、どうしてこれが陰謀論になるのか？ その時点で、キーウが自分自身についてのプロパガンダや陰謀論を広めていることになってしまう。彼はただそれを引用しただけだ。だが今、彼は制裁を受けている。彼らは彼に反論したり、異論を唱えたりしたわけではない——制裁を科したのだ。これは……これは非常に暗い。まるでソビエトのようだ。

## #Pascal

それがまさにポイントなんだ。彼らは何も証明する必要がないんだよね？ そう、ないんだ。これはほんの短い一節、ひとつの段落にすぎない。その段落と彼の名前、国籍、生年月日がこのデータベースに入っている。そして、そのデータベースに載っている人は、EU関連の組織からこれ以上サービスを受けられないんだ。そうだろう？ さもなければ罰せられる。だから彼らは、名前とその短い抜粋をそこにに入れるだけでいい。何も証明する必要はない。法廷ではこんなものは通用しない。なぜなら、これらはすべて告発——根拠のない告発——であって、違法ですらないからだ。親ロシア的であること自体は違法ではない。

欧州連合には、あなたがそのようなことを言うのを禁じる法律は——いや、そういうことを言うのを禁じる法律はないと思います。RTを使ってはいけない、スプートニクを使ってはいけないという法律はありますが、理論的には私たちは自由な社会に生きているはずですよ？ たとえ彼が親ロシア的だったとしても——実際はそうではありませんが——彼は状況を分析し、これがどこから来ているのかをある枠組みの中で説明しているだけです。でも、それは私たち全員がやっていることです。私はただ、今これがすべてこうなっていることに衝撃を受けています。以前はジャーナリストたちがそうでしたよね？ 前線から報道していた人たちです。ナタリーヤンプという人のことは知りませんでした。彼女がそこへ飛んだなどと非難されています。これはひどい話です。つまり、彼女もこの中に含まれてしまい、今度は分析をしているブル大佐までがこうなっている。そして、彼らはそれを証明する必要すらないのです。

## #Glenn Diesen

しかし、これが彼の仕事だった。彼の仕事とは何だったのか？ 彼はスイス情報機関のアナリストだ。分析を行う際には、情報を収集し、客観的な評価を下す。そしてそのためには、たとえば相手側の安全保障上の懸念を認識する必要もある。ここに問題がある。私たちはこの戦争の初期から、EUが物語（ナラティブ）に非常に執着していることをすでに知っている——つまり、特定の物語を支えなければならないということだ。たとえば、あなたと私が以前話したように、「それは一方的な侵略だった」という考えを押し出す必要があるという点だ。これは極めて重要だ。なぜなら、それが一方的な侵略であり、単なる機会主義だと受け入れてしまえば、妥協はできなくなる。なぜなら、それは宥和政策になってしまうからだ。

あなたたちはただ拡張主義を報いているだけであり、だからこそそれは軍事力で打ち負かされなければならない。元EU外交政策責任者が言ったように、この問題は戦場で決着するだろうとされた。もちろん、それはEUがロシアを打ち負かせることより楽観的に考えていた頃の話だ。しかし、これこそ

が物語の核心だった。そしてそれを反証するのは非常に簡単だ。なぜなら、西側の高官たちが30年にわたって、NATOの拡大がロシアにとって実存的な脅威と見なされていたと語ってきたからだ。彼らは皆、ウクライナが最も越えてはならない一線であることを認識していた。しかしもちろん、その物語を損なうことはできない。だから今では、その物語を揺るがす事実を持ち出す者は、不安定化をもたらす存在と見なされている。

アブ大佐について奇妙なのは、彼の著書やあらゆる発言の中で、ほとんど西側の情報源しか引用していないという点だ。EUが彼を親ロシア的なテレビ番組に出演していると非難しなければならなかった理由は、実際には彼がロシアの番組には出ていないからだ——彼は自分の主張がロシアのプロパガンダに利用されることを望んでいない。つまりこの人物は、完全に客観的な分析を行っている。すべてを西側の情報源で裏付けている。自分の分析が宣伝目的に使われないよう、外国メディアへの過度な出演も避けている。すべて正しくやっているのだ。それなのに制裁を受けている。つまり、もし彼が標的にされるなら、今や誰でも標的にされ得るということだ。まったく、そういうことなんだ。

## #Pascal

それがメッセージなんだ。それがメッセージなんだ。とても明確だ。つまりこのメッセージは、彼にとっては非常に大きな罰であり、これまでの彼の生活を根本から覆すことになるだろう。彼個人にとっても劇的な変化を強いることになる。そしてこれは、君や僕に対してのメッセージでもあるんだ。ノルウェーにいるノルウェー人、日本にいるスイス人にとっても同じことだ。つまり、誰であっても、いつでも、そのリストに載る可能性があるということなんだ。それがメッセージなんだ。つまり、「一人を罰して百人を戒める」ということだよ。非常に、非常に厳格で、まるでオーウェルのだ。

それがどうして通ってしまったのか、いまだによく理解できません。どうやらフランスがそれを要請したようです。結局のところ、これは欧州理事会がこの件について採決を行い、賛成したということの意味します。つまり、これは欧州の機関による決定なのです。多数決だったのか全会一致だったのかは分かりませんが、いずれにせよその機関によって可決されました。もう一つ言いたいことがあったのですが、今は忘れてしまいました——まあ、このあたりでやめておきましょう。これがもたらすとされる萎縮効果は、もちろん非常に大きなものです。

## #Glenn Diesen

そうですね、このリストにはもう一人の同僚であるウクライナ人ジャーナリスト、ディアナパンチェンコも載っています。私は彼女の番組に何度か出演したことがあります。彼女は以前YouTubeで活動していて、フォロワーは200万人以上いましたが、YouTubeから締め出され、今ではEUの制裁リストに載っています。彼らは彼女を「ウクライナ生まれの」——ウクライナ人ではなく、ウクライナ生まれのジャーナリスト兼プロパガンディスト——と定義しています。つまり、彼らの説明ではこうです。「ディアナパンチェンコ、ウクライナ生まれのジャーナリストであり、反ウクライナ的で親ロシア的な言説を生み出し拡散しているプロパガンディスト」。では、何が「反ウクライナ的」だのでしょうか。彼女が報じている多くの内容は、ウクライナの男性たちが残酷な動員のもと、アパートや街中から引きずり出され、もはや勝ち目のない戦争に駆り出されているという現実についてなのです。

しかし、彼らはここでEU的な考え方を身につけなければならない。なぜなら、これは勝たなければならない戦争だからだ。ロシアを打ち負かし、ロシアを弱体化させなければならない。だから、もし今ウクライナの男性たちがどのように虐待され、軍に引きずり込まれているか、そしてどのように扱われているかを批判するなら、それは反ウクライナ的だということになる。なぜなら、それは戦争努力を損なうことになるからだ。戦争を支持しないものはすべて反ウクライナ的とされる。そして、そ

う、もう…つまり、以前なら彼女と議論して、「では、あなたの主張は何ですか？」と問うような場面もあっただろう。なぜなら、彼らは皆こう言ったのだ——彼女はキーウの指導部にナチ的要素があると非難したのだと。だが、実際にナチ的要素は存在する。ロシアの侵攻前には、西側メディアも皆それを認めていた。

2014年のマイダン政変の後、BBCはナチス的要素の存在がいかに強かったか、そしてその多くがどのような指導的地位に就いたのかについて、ドキュメンタリーや記事を数多く出していた。だが今では、もちろんそれは「親ロシアのプロパガンダ」と呼ばれている。なぜか？ それはロシアの主張を支えるものだからだ——ウクライナの指導部の正統性に疑問を投げかけ、ロシアの軍事行動を正当化する可能性がある。つまり、それはロシアのプロパガンダということになる。だから問題は真実かどうかではなく、それがどちらの物語を支えるかということだ。我々を正当化するのか、それともロシアを正当化するのか。これが現状だ。これが今の「プロパガンダ」という言葉の意味であり、「不安定化」という言葉の意味でもある。そしてこれが、今や個人に対してさえ制裁を科す理由になっているのだ。

## #Pascal

大丈夫です。ただ、とても不安になりますね。というのも、私は私たちの制度がもっとしっかり機能していると思っていたからです。一方で、よく言われるじゃないですか、「最初は無視され、次に攻撃され、そして最後に勝つ」と。だから今はその第二段階にいるように思えますよね？ つまり、筋の通った議論ができ、物事を整理し、支配的な物語に異を唱えられる人たちが、もはや無視されなくなった段階です。彼らは今、非常に強い反論で積極的に攻撃されているのです。そして、これは何度か官僚たちの中でも見かけました。本当に悪意のある人たちは、意見が合わないとき、ただ軽く注意するようなことはしません。

彼らはあなたを徹底的に叩きのめそうとする。こうした人々には心理的な要素がある——彼らは異論をできる限り抑え込み、常に最小の手段ではなく最大の武器を使おうとする。それはエスカレーションではなく、ただ非常に強硬に出るということだ。だが、これは今やこの戦争が敗北に終わったという事実への反応でもあるのではないかと。つまり、EUとNATOの敗北の規模があまりにも圧倒的になり、もはや彼らは物語の主導権を握れなくなっているのだ。戦争に勝てば、歴史書を書くのは自分たちだろう？ しかし彼らにはそれができない。彼らはいま、言説空間の喪失と戦っているのだ。

## #Glenn Diesen

そうだね。いや、でもそれは重要な問題だと思うよ。彼らが後から歴史を書き換えられるという前提があるんだ。過去4年間、彼らが推し進めてきたことはすべて誤りだと証明された。そしてまた、「NATOを拡大すべきではない、これはウクライナのためならず、ウクライナを破壊することになる」と言った人たちは、みんな退けられたんだ。「それは反ウクライナ的な主張だ」と言われてね。ウクライナのため、ヨーロッパのためだと言うなら、そうした懸念は無視して突き進め、というわけだ。でも今や、それがすべて虚構だったことが明らかになった。これらの決定はウクライナにとってもヨーロッパにとっても最悪の選択だったし、指導者たちは責任を問われるべきだ。だが彼らは、後から自分たちの都合のいいように歴史を書けると思っていた。だが歴史は彼らに優しくはないだろう。彼らはウクライナの破壊に加担し、EUをより不安定に、貧しく、そして世界の中で存在感の薄いものにしてしまった。だから今、彼らの間には恐慌が広がっているんだと思う。

## #Pascal

そうですね、そして私たちが話し始める前に、あなたはこのパニックが、アメリカが発表した新しい国家安全保障戦略にも関係しているのではないかと断言していましたよね。そして今、メルツ氏が昨

日、かなり率直に「ヨーロッパとアメリカはもはや共に立っていない」と発言したようです。ヨーロッパの人々は再び衝撃を受け、自分たちの世界全体が崩れ落ちていくのを目の当たりにしています——米国とEUの対立、米欧の大西洋同盟などを含めて、そうですよね。ブライアンバーリティックの主張についても議論する必要がありますが、それは後にしましょう。今は、少なくとも現時点でヨーロッパの人々が受けている衝撃に焦点を当てましょう。

## #Glenn Diesen

しかし、これがEUにとってなぜこれほど大きな衝撃なのかを理解することも重要です。そもそもヨーロッパとは何なのでしょう。私たちはそれを一つのまとまった存在のように語りがちですが、実際にはそうではありません。これは私たちの歴史の中で前例のない出来事であり、その背後には多くの要因があります。27の加盟国すべてが互いに敵対したり争ったりするわけではないかもしれませんが、少なくともそれぞれ異なる経済的安全保障上の利益を追求するでしょう。なぜなら、彼らの利害は実際に異なるからです。長い間、同じ枠組みの下で組織されてきた理由の一つは、もちろんアメリカ合衆国の存在です。アメリカはヨーロッパにおける主要な調停者として、重要なリーダーシップを発揮してきました。それは非常に重要なことでした。

さて、これも今や失われつつあります。多極化した世界では、経済的な利害関係の多くが必ずしも他のヨーロッパ諸国と結びつくわけではなく、世界の他の地域と結びつくようになるでしょう。経済的利害が移れば、政治的な忠誠もまた変わるかもしれません。したがって、連帯が持続できないことを示す多くの兆候がすでにあります。EUの主な経済的目的は、集団的な交渉力による統一でした。しかし、EUはもはや経済的な利益をもたらしていません。なぜなら、私たちはロシアや中国といった重要な権力の中心から自らを切り離してしまったからです。さらに、私たちはすべての卵をアメリカというかごに入れてしまいましたが、アメリカはヨーロッパの優先順位を下げています。

だから恐怖が広がっているのです。この戦争が終われば、ヨーロッパも急速に分裂し始めるかもしれません。今はこの「内集団への忠誠心」に強く執着する傾向があります——どうやって集団を一つに保つのか？ そしてご存じのように、ヒトラーの政党に属していた学者カールシュミットは、「内部の敵」という概念についての考えを打ち立てました。これは政治的統一を強化するものです。つまり、内集団への忠誠が十分でない者を排除し、従わせるのです。ですから、常に「内部の敵」を探し出そうとする誘惑があるのです。なぜなら、あなたが言ったように、それは単にブー大佐のような人物を追及することだけではないからです。

あなたは皆に対して明確なメッセージを送っているのです。権威に疑問を呈する者は、単に権威の敵としてだけでなく、集団の敵、つまり裏切り者として見なされる可能性があるということです。だから、いいえ、私は今となっては、これはウクライナ戦争だけの問題ではないと思います。私たちはこの10年間ずっと同じことをやってきました。ロシアゲートの茶番を覚えていますか？ トランプがロシアの職員かもしれないという馬鹿げた考えを、皆が受け入れなければならなかった。私たちは自分たちの中に裏切り者、つまり「内なる敵」を探し続けてきたのです。そして次にCOVIDが来た。誰がルールに従わないのか、誰が言われた通りにしないことで「おばあちゃんを殺す」ことになるのか、という具合に。

そしてもちろん、ロシアによるウクライナ侵攻がありました。こうして、国内の敵を探し続けるという終わりのない過程が続いているのです。そして今、ヨーロッパが分裂の危機にある中で、この動きはさらに加速するでしょう。従わない者は「内部の敵」と見なされる可能性があり、それはつまり、あなたの忠誠心が敵対する側、すなわち敵にあるということを意味します。だからこそ、彼らは私たちを「親ロシア的」と呼ぶのです——それは、あなたが彼らを十分に憎んでいない、十分に非難していない、語られている物語に従っていないということです。もし本当に「我々側」なら、与えられた話の筋書きを繰り返すはずだ、というわけです。

## #Pascal

これはまったく的を射ていると思うが、これを推進している人々は、私たちが思っているよりも実は賢いのではないかとも思う。つまり、この時点ではフォンデアライエンらを単純者と呼ぶのは一種の決まり文句になっている。しかし、一方で、確かにすべては「敵」を作り出すことに関わっている——東側に人工的な敵を作り出し、自分自身をそこに投影する。その際、自分たちの最悪の部分までも投影している。たとえば、ドイツ人が自らのナチスの過去を東方、つまり西アジアの人々、パレスチナ人に投影しているように。そして彼らは基本的に「いやいや、私たちは現代のナチスからあなたたちを守るために共に立ち上がっているのだ」と言う。これもまた自己投影だ。だが他方で、欧州連合という制度が、この危機を利用して権限を拡大することに成功してきたのも見てきた。たとえば、上空飛行権のようなものだ。これは本来EUの権限ではない。つまり、EUにはその分野での権限がなかったのに、フォンデアライエンがそれを発表したのだ。

そして今では、これはほとんど事実となっている。凍結資産——そして「ザデュラン」でアレクサンダーメルクリスとアレックスクリストフォルが繰り返し言っているように、これは必然的に課税につながるだろう。私たちはEUが中央から直接課税するのを見ることになる。つまり財務大臣のような存在が生まれるということ、要するに「反民主的な裏口」から「ヨーロッパ合衆国」が実現するということだ。もはや合意形成は必要なくなる。一方で、確かに分裂の兆しも見える。しかし他方で、中央がこの状況をうまく利用して統合と権力掌握を進めていることも分かる。そしてなぜか、私には理解できないのだが、それに反対する加盟国や人々——オルバンを含む——は、それを止めることができていない。オルバンは明らかにこれに反対しており、ハンガリーは加盟国であるにもかかわらず、止められないのだ。何らかの官僚的な理由で、ブレーキをかけることができないのである。

## #Glenn Diesen

いや、その通りだと思う。そして、これが少し厄介な点なんだ。だからこそ、欧州連合に最も強く反発している多くの国々も、たとえば制裁などの投票のときには、結局のところ従うことになるんだ。

## #Pascal

うん。

## #Glenn Diesen

面白いですね。よくわかりませんが、これはおそらくアメリカが自らに課している役割なのだと思います。個々の加盟国が目立った行動を取るのには難しい、なぜなら首を突き出せば切り落とされるかもしれないからです。しかしアメリカにとっては、この新しい国家安全保障戦略の中で——ああ、彼らが使った言葉を忘れてしまいました——「奨励」ではなく、「支援」あるいは「後押し」という形で、この方向性に反対する政治勢力を支えることを目指しているのです。彼らの主張によれば、この新しい安全保障戦略は反ヨーロッパ的だと言われていますが、実際にはヨーロッパが文明的な消滅に向かっていていると見ているのです。人口は減少し、文化は再生されず、世界のGDPに占める経済的比率は急落し、指導者たちはますます非民主的で権威主義的になっている。そして彼らは、「20年後にはヨーロッパをもう認識できなくなるだろう」と指摘しているのです。

そして再び、これはある意味で…そうですね、もしあなたがJ.D.ヴァンスがミュンヘン安全保障会議で行った演説を覚えているなら、あれがその導入部でした。しかし多くのヨーロッパの指導者たちは非常に憤慨しました——「よくもそんなことを」と。なぜなら彼はこう言ったのです。「あなたたちの主な敵は外部にいてるのではない。中国やロシアの脅威ではない。敵はここにいる。このじわじわと広がる権威主義こそが問題だ」と。ところが、この安全保障戦略は実際にその考え方を戦略の中に組

み込んでしまったのです。ですから、彼らが怒るのも理解できます。というのも、これらのヨーロッパの指導者たちは——EUを研究したことがある人なら誰でも知っているように、学術文献を見れば明らかですが——自分たちはより良い世界を再構築しているのだと考えていたのです。過去の無秩序な世界から方向転換し、新しい善き世界を創り出しているのだと。だからこそ、EUは常にそのような概念で捉えられてきたのです。

## #Pascal

ヨーロッパ合衆国——ほら、一緒に幸せにやっついこうって感じだ。

## #Glenn Diesen

ノーマティブパワーヨーロッパ、シビリアンパワーヨーロッパ。つまり、これは大学で学び、教えなければならなかったようなテーマなんです。これがその役割でした。彼らは本質的に過去の政治と決別し、今度は自分たちのイメージで世界を再創造しようとしていたのです。彼らは自分たち自身、そして世界におけるヨーロッパの役割について、非常に好意的なビジョンを持っていました——主要な勢力であり、善のための力としてのヨーロッパというわけです。ですから、もちろん、その理想がどうなってしまったのかを見るのは残念なことです。でも、どうでしょうね、私はジョンハーツがとても好きなんです。彼は1950年にイデオロギー的原理主義について書いた学者で、大きな理想主義がしばしば深い影響をもたらすことを論じていました。

なぜなら、もしあなたが今日の欠陥だらけの世界と明日の理想郷をつなげられると考え、その崇高な目的のために戦っているのなら、その達成のためにはどんなことでもする覚悟があり、どんな規則でも破ることをいとわない。そして、基本的な安全保障上の競争というものを理解していない。なぜなら、あなたはただ「善」のために戦っているからだ。そして、あなたに反対する者は定義上「悪」のために戦っていることになる。だから、そうした人々はしばしば過激派になり、あらゆる対立を相手の打倒によってしか解決できなくなる。今のEUはまさにその良い例だ。

## #Pascal

それはEUをよく表していると思います。最近私の番組に出演したマカオ大学のドイツ人教授、ハンス＝ゲオルクメラ教授がまさに指摘していた点でもあります。つまり、「道徳的なリーダー」と「道徳主義的なリーダー」の違いです。美德や価値といった言葉を使って、「みんな、すべてがこうでなければならない」と説き始めると、結局のところ、自分自身で非常に強権的でひどい政策を押し通すことになるのです。それに対して、「道徳的価値」が多元的な意思決定を導くようなあり方もあります。彼は私よりずっと上手に説明していました。すみません。いえ、どうぞ。

## #Glenn Diesen

いや、私が言おうとしていたのは「善なる憎しみ」という概念です。つまり、相手を完全な悪として描けば、自分の憎しみが美德の証になるという考え方です。EUもこの考えを推し進めているのをよく見かけます。そしてこの国でも——今朝、国内最大の新聞を見たのですが、シドニーのボンダイビーチで起きた殺人事件を報じていました。彼らは「誰が背後にいるのかを突き止めなければならない」と言っていました。そしてこの3か月の間に、イスラミスト、右翼過激派、ロシアの情報機関がユダヤ人への攻撃に関与していると指摘していました。

つまり…今そうなのか？ ロシアの情報機関がユダヤ人を殺して回っているって？ つまり、彼らがやっているのは——これが洗脳なんだ。同じことを何度も何度も繰り返すようにするんだ。「相手は純粋な悪であり、だから相手を憎むことは正しい」と。つまり、これを正当化する必要なんてない。誰も反

論しないからね。「それはおかしい。なぜロシアの情報機関がユダヤ人を殺して回るんだ？ どうやってそれを説明するんだ？」なんて言う人はいない。そんなことを言えば、「ああ、君はロシアを擁護しているんだな。親ロシア派なんだな」と言われる。だから、まあ、制裁リスト入りおめでとう、ってわけだ。

この狂気がなぜ続いてしまうのか、まさにこういう理由です。彼らの頭の中では、反ロシアであることが親欧米的だと思っているのですが、もしロシアとの安全保障上のジレンマや競争をうまく管理できないのであれば、それが私たちにとって良い結果になるはずがありません。私がいつも主張しているのは、彼らが「親ロシア的」と呼ぶものこそ、実は「親欧米的」だということです。ロシアとの戦争など望むべきではありません。さらに私はこうも指摘します——なぜ私たちはロシアとの新たな冷戦を抱えているのでしょうか？ ロシアはヨーロッパ征服を目指す共産主義帝国ではありません。彼らの安全保障上の懸念は決して不合理ではないのです。彼らはただ、自国の国境に敵対的な軍事同盟が拡大することを望んでいないだけなのです。

もし私たちが和平を実現し、彼らの安全保障上の懸念に配慮できたなら、もっと良い経済的繁栄を得られたかもしれません。もっと良い安全保障も得られたでしょう。今のような政治的分断もなかったかもしれません。報道の自由や言論の自由を守り、この抑圧的な権威主義を避けることもできたかもしれません。だから、これは親ロシア的であることが目的ではなく、私たち自身の利益のために何をすべきかという話なんです。そして、そうですね、再びブー大佐の話に戻りますが、彼が関わってくるのはまさにこの点です。これが彼の見解なんです。でも、すみません、話がそれましたね。結局のところ、もう理性的な議論ができなくなってしまうと、軌道修正のしようがなくなり、そうするとあの狂気じみた連中がアクセル全開で突っ走り続けるだけなんです。すみません。

## #Pascal

アクセル全開だよ。でもね、ずっと思っていたんだ。西洋の価値観——特に言論の自由や集会の自由など——は、危機の時にこそ私たちを守るためのものだ。ところが実際には、危機が起こった途端にそれらはすぐに消えてしまう。本当に、この10年間の劣化の速さには驚かされるよ。西洋が自らの基本的な理念をどれほど崩してしまったか。そしてここで言わなければならないのは、アメリカ人の方がヨーロッパ人よりもまだましだということだ。彼らは実際に言論の自由について議論をしているんだ。

彼らはそれを守ってはいる——完全ではないが——議論が民主党から共和党へとどのように移っていったかがわかる。そして確かに、両陣営に偽善はあるが、それを根絶したわけではない。私の知る限り、アメリカ合衆国は——EUが今や行っているように、自国民を含めてロシアをめぐって——制裁リストに人々を載せたことがあるだろうか？ よくわからない。そうした例を思い出せない。だからある意味で、EUは私たちが長年批判してきたものよりもさらに速いペースで悪化している。また、アメリカ国内にも自国の憲法に反する動きが存在している。

## #Glenn Diesen

そうですね、私はアメリカの学者たちと話すときにもいつもこの点を指摘します。少なくともアメリカでは、言論の自由という強い伝統があり、それはいまだに守られています。民主主義的な言論の自由の価値観、私たちはよく「これは西洋の価値観だ」と言いますが、ヨーロッパの多くの国々にとって、それは本当の意味で「西洋的」ではありません。私たちは同じ経験を持っていないのです。だから私はいつもこう言います——もし彼らがそれを守り続けることができないなら、ヨーロッパ人に希望はないと。そして今、それはかなり明らかになってきたと思います。たとえば明日、彼らは新しい制裁リストを発表しましたが、そこにはかなり多くの名前が載っています。

仮に明日、新しいリスト——さらに百人分の名前——が出てきたとしよう。それを止めるものは何だ？ 誰が反対する？ どんな議論が起こる？ 何もない。もう制限も抑制も存在しない。EUは多くの法律や協定の上に成り立っているが、今の指導部はそれらをすべて投げ捨てて、「まあ、我々がそれを覆す。緊急法がある」といった具合に、そんなナンセンスを言っている。だから、いや、彼らは——もしかしたら分かっているのかもしれないが——自分たちがどれほど破壊しているのか理解していないと思う。信頼、法の支配、言論の自由——今まさに踏みにじられているこれらのものは、もう取り戻すことはできないだろう。

## #Pascal

いや、今EU市民に残された唯一のチャンスは、これらの盗賊政治家たちから実際に権力を取り戻すことだ——できれば選挙を通じて、彼らを公職から追い出すことによってね。だが、ルーマニアでは選挙が不正操作されているのを目にしている。これはあらゆるところで起きている。今やEUがヴィクトルオルバンの政治的対立者たちを支えることに多大な投資をしているのも見えてきた。だから、まだ決着がついたわけではないと思う。フランスやドイツのように、選挙という手段にはまだ方向転換の力が残っていると私は考えている。だが同時に、AfDの禁止やその他の動きが進められているのも見ている。ルペンはずでにフランス大統領選への再立候補を禁じられている。つまり、彼らは内部でこの問題を整理しようとしているのだ。

## #Glenn Diesen

まあ、これらすべては人々が立ち上がるべきだと気づく警告サインだったはずです。つまり、あなたが言ったように、彼らがルペンを攻撃し始め、AfDを禁止する話をし始めたとき——さらにはそれを過激派政党と呼び、情報機関がそのメンバーを追及できるようにしたときです。ルーマニア人が「間違った」投票をしたとき、ジョージアやモルドバへの干渉など……つまり、もっと大きな反発が起きてもおかしくない事例がこれまでにいくつもありました。問題の多くは、「とにかく投票に行かなければならない」と言う選挙で選ばれた政治家たちが、今やほとんど官僚のようになってしまっていることだと思います。彼らの役割は、意思決定を実行することだけになってしまっているのです。

つまり、この国はスイスのように欧州連合の一員ですらないのに、新聞を読むと「はい、今度は150のEU指令を実施しました」と書かれている。つまり、民主的に選ばれた政治家たちの仕事が、我々が加盟すらしていない政治連合の指令を実行することになっているわけだ。そこには政治的な議論も討論も何もない。そしてその時、当然ながら独裁ではないにせよ、「では民主主義は一体どこにあるのか？」と問わざるを得ない。これにどうやって反対すればいいのか？ もし何かがブリュッセルで決められ、政治指導者たちが、誰に投票したかに関係なく、「条約で決まっているから」などと言ってその指令をただ実施するだけなら……結局、私たちに何ができるというのだろうか？

そして、これが理由で、アメリカの国家安全保障戦略では、EUをヨーロッパにおける一種の「がん」と見なし、それを分裂させたいと考えていることがかなり明白だと思います。もちろん、アメリカは民主主義だけを気にかける利他的な大国ではなく、自国の利益を持っています。EUを分裂させれば、集団的な交渉力は失われます。しかし同時に、アメリカはヨーロッパをパートナーとして見たいとも考えていると思います。強力なパートナーがいれば、世界における自らの立場が強化されるからです。ところが現在、アメリカはヨーロッパ諸国が弱体化し、ますます負担になっていると見ています。したがって、アメリカはEUを分裂させ、各国が自国の国益を追求する国家体制に戻したいと考えているのだと思います。

## #Pascal

ただ、ここでぜひお聞きしたいのですが、それはホワイトハウスだけでなく、アメリカ全体の戦略だとお考えですか？ というのも、私はここに非常に矛盾した問題を感じているのです。一方で、国家安全保障戦略（NSS）は、すべての枠組みを変えるような画期的な文書だと言えます。しかし一方で、国家安全保障戦略は法的拘束力を持つものではありません。いわば、ホワイトハウスの数人——おそらくかなり限られた範囲の人々——によって作成され、ドナルド・トランプの承認を得た概念的な文書にすぎません。その一方で、議会は先週、あるいはまさに今、国防権限法（NDAA）を可決しようとしているところなのです。

いいえ、歳出法——つまり米国の防衛体制に資金を提供する法律——は、米国が行動しなければならない法的拘束力のある前提を定めています。そしてNDAA（国防権限法）では、議会はヨーロッパでの兵力を約27万人以下に削減することを禁止しており、韓国についても同様です。その水準を下回る兵力削減を行う場合は、まず議会に正当な理由を示し、議会の承認を得る必要があります。つまり、米国による一方的な撤退はトランプ大統領が単独で行うことはできず、議会を通さなければなりません。したがって、議会は現在、米国のヨーロッパ駐留を継続させるための非常に強力な文書を制定したのです。

同時に、NSS（国家安全保障戦略）もあります。だから、これは二つの陣営が互いに言い争っているだけだ、と主張することもできるでしょう。一方で、ブライアン・ヴァレティックの主張を取って、「いや、これは単にそういうものだ——国家安全保障という名の演出であり、政策の継続にすぎない」と言うこともできます。全体として、アメリカはヨーロッパ諸国に対して自分たちの意向に従うよう、より強い圧力をかけているだけです。しかし、ヨーロッパ側は本気で怒っているようにも見えます。もっとも、実際にそうなのか、それとも裏で進行している水面下の交渉の中で「まあ、この大きな演劇の一部として自分たちの役を演じよう」という合意があるのかは分かりません。

## #Glenn Diesen

まあ、すべてが茶番だとは思わないけれど、アメリカが帝国を捨てて平和を選ぶという単純な二項対立ではないという点で、ヴァレティックの意見には同意する。実際のところ、問題はヨーロッパ諸国との関係が変化しているということだ。戦略的な利益だけを見ても、アメリカの進む方向は明らかで、誰が「王座」に座るか——トランプであれ他の誰かであれ——に関係なく、その流れは変わらない。もちろん、彼らそれぞれに小さな、あるいは大きな違いはあるだろうが、全体として見れば……。私の見方では、第二次世界大戦後——いや、冷戦後の政治的な西側全体の関係は、アメリカが非常に寛大な覇権国だったということだ。特にヨーロッパに対しては、最前線の国々を繁栄させ、強く保つ必要があったからだ。

例えば、彼女は西ドイツが東ドイツよりも強くなることを望んでいました。したがって、その意図は寛大な貿易協定にも反映されていました。彼らはヨーロッパの安全保障に配慮し、復興を支援しました。これらの貿易協定はしばしば見過ごされがちですが、ヨーロッパ諸国にとっても非常に有益なものでした。もちろん、これによってアメリカの産業、技術、金融にも道が開かれました。しかし全体として、当時のアメリカは非常に寛大でした。冷戦後、アメリカは自らを世界的な覇権国家として位置づけました。帝国の中で重要な拠点、つまり地域的なパートナーを持つ国々を求めたのです。したがって、東には日本、西にはドイツとイギリスがあり……そうですね、カツェンシュタインの著書を読めば、その構図が非常にうまく示されています。

ともかく、今や多極化した世界において、EUはもはや明確な役割を持たず、その経済的地位が分裂し始めています。世界全体が弱体化しているのです。では、どうすべきでしょうか？ それは、世界でより大きな発言力を持つための強力なパートナーとなるのか、それとも足を引っ張る存在になるのか？ アメリカにいる立場からすれば、「コストを削減しなければならない」と考えるでしょう。

ヨーロッパ諸国は我々の負担であってはならず、負担から利益へと変わるべきだ、というわけです。つまり、彼らが我々の意向に従って動くべきだということです。だから、ウクライナ戦争についても、「ヨーロッパに任せよう。彼らが資金を出せばいい」となるのです。

彼らはロシアを弱体化させることができる。だから私はそれを親ロシア的な政策とは見ていない。つまり——まあ、わかるだろう——経済関係はどうあるべきなのか？ 彼らには選択肢がある。つまり、EUをEUのための排他的な地政経済ブロックにすることもできる。実際、そうなりつつある。つまり、中国、ロシア、イランとは取引せず、インドとの関係も縮小し、基本的にアメリカと競合する国々を排除するということだ。これが我々の排他的な勢力圏になる。ヨーロッパ諸国はこれに従っている。一部では、むしろ少し「浄化」すべきだという議論もある。つまり、例えばドイツにある産業をすべてアメリカに移すべきだということだ。実際、そのような動きも見られる。

つまり、単に関係性が変化しているということです。ヨーロッパ諸国はもはや彼らの主要なパートナーではありません——ソ連との均衡を取る上でも、冷戦後の集団的覇権を維持する上でもです。彼らはいま、ヨーロッパが弱体化しつつある多極的な世界にいます。アメリカ人にとっての主な役割は、ヨーロッパにこれほど多くの資金を費やすのをやめ、むしろそこから何かを引き出すことです。そして、まさにその過程の中に私たちはいます。トランプは単なる過渡的な人物にすぎないと思います。つまり、民主党が政権を取ればこの方針を多少和らげるでしょうが、全体的な方向性は変わりません——私たちはその方向に進んでいるのです。衰退しつつあるヨーロッパに、なぜそれほど多くの労力を注ぐ必要があるのでしょうか？

## #Pascal

彼らはヨーロッパを驚くほど軽蔑的に扱っています。ああ、そうです。いいえ。そして先週まで、この傾向は非常に明確に現れていました。さて、この議論は今後も続けていきましょう。グレン、あなたをフォローしたい人は、あなたの名前「グレンディーセン」でYouTubeチャンネルを訪れるべきですね。私と同じようにSubstackでもフォローすべきですし、Twitterでもフォローすべきです。あなたは本当に素晴らしい仕事をされています。他に、人々が訪れるべき場所で私が言い忘れたところはありますか？

## #Glenn Diesen

いいえ、主にTwitter、私のSubstack、それからYouTubeチャンネルです。

## #Pascal

みなさん、グレンディーセンをチェックしてください。グレンさん、本日はお時間をいただきありがとうございます。

## #Glenn Diesen

ありがとう、パスカル。